

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月20日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500246
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
(ユニット名)	ちとせ
記入者(管理者)	
氏名	田坂 慶子
自己評価作成日	令和元年 5 月 30 日

<p>【事業所理念】 その人らしさを大切にできる温もりのある支援と介護を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者一人ひとりの思いを大切に気持ちに余裕を持って対応する事で、着替えをする時も自分が選べるようになり、満足した笑顔が見受けられるようになってきている。月1回発行の広報誌にお知らせコーナーを設け情報提供し、家族が来所時には利用者様の様子等説明し、気軽に話が出来るような声かけを心掛けるようになってきている。利用者の思いが叶えられる様に、常に理念を念頭に置いた支援が出来るよう職員間で気が付いたら指摘しあえる人間関係が出来、温かい支援が出来るようになってきている。防災の備えについては当施設が避難場所になっていることもあり、日頃から地域住民とのコミュニケーションが取れるようになった、防火訓練以外にも、市に出前講座を依頼(煙ハウスを利用した避難訓練や心肺蘇生術)し開催した時にも地域住民の参加もあり人間関係も築けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者と職員は信頼関係が築けており、事業所理念に掲げるその人らしさを大切にできる支援に努めている。職員は利用者の方を自分の家族のように接している。事業所は災害時における地域の避難所となるなど、地域との協力体制も構築され、利用者は地域の中で見守られながら生活しており家族も安心である。「生きる楽しみを共有し、共に自然体でその時を迎えられるように」との思いで関係者が方針を共有し、看取りにも積極的に取り組んでいる。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ケアプランに反映されている。	○	/	○	日々の暮らしの中で、会話や表情から、それぞれの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族の情報や観察、日々の会話から得る。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	入所時だけでなく面会時にもよく会話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の言葉を記録に残している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	目で見えること、目に見えない事もスタッフ間で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	契約前から情報を得ている。	/	/	○	入居の際に利用者や家族、介護支援専門員からこれまでの生活歴やサービスの利用状況等を聞き取っている。入居後も面会に来られた家族や知人などからも情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	色々な活動から読み取れることから状況把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	観察により違和感があれば記録に残し情報を共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	スキンシップや寄り添って会話する事で把握出来ている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	夜間の落ち着きが日中の落ち着きにも影響するので報告は濃い。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	職員・家族・本人も交えて話し合っている。	/	/	○	担当者会議以外にも、毎月のユニット会で家族の意向や職員の気づきなどを話し合い、一人ひとりのニーズを共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	職員・家族・本人も交えて話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	職員・家族・本人も交えて話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	担当者会には様々な職種の意見が集約され、本人の意向に沿った計画になっている。	/	/	/	利用者や家族の意向に沿って日々のケアのあり方を話し合い、本人がより良く暮らすための課題解決に向けて介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	常に話し合っており、よりよいケアに努めている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	障害の重さに目を奪われないようにその人らしい暮らしを目指している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域生活が可能になる為の体制作りを実施している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランの周知徹底に努めている。	/	/	◎	介護計画の内容はいつでも確認できるようファイルされ、職員間で共有している。介護記録には介護計画に沿ったケアが実践できたか評価を記載しており、日々の支援や計画の見直しにつなげている。利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づき等の具体的な内容についての記録が少ないため、今後は記録に残して職員間で共有できるよう努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	3か月に1度、状態の急な変化にも即時対応している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	◎	ケアの実践は具体的に記録している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	経過記録に記載している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	見直しは早急に行っている。	/	/	○	介護計画は3か月に1回見直している。状態に変化のない場合も、月1回のユニット会で利用者全員の現状を確認している。入院等で状態に大きな変化が生じた場合は、速やかに家族等を交え会議を開催し、現状に応じた新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	担当者会以外に月1回は現状確認する話し合いの場を設けている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化があれば速やかに相談し、計画の見直しを図っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	常に対応している。	/	/	○	日頃の課題を解決するため、毎月接遇や感染予防等テーマを掲げ、研修を兼ねて全体会議を開催するほか、緊急案件がある場合は、その都度会議を開催している。会議録は確認後サインする仕組みで、全員の周知が確認できるまで置いており、参加できない職員にも情報が伝わるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	必ず全員が発言している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	年間計画に開催日が記載されているので、よほどのことがない限り予定を入れなくていい。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を公開している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用している。	/	/	◎	会議録や申し送りノートを活用し、職員全員で伝達すべき内容等について検討し共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートを活用している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	できる限り要望に添えるよう努めている。	/	/	/	毎日の衣服は、ゆっくり選んでもらえるよう時間の取れる前日の夜に、利用者一人ひとりの要望を確認し決めるようにしている。季節に応じて、「アジサイがきれいだから観に行こう」など、利用者の興味をそそり外出を楽しんでもらうよう工夫した声かけに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	選択する機会を設けている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	一人ひとりの読解力や聞き取り能力に応じて、工夫した会話から聞き取りを行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者のペースに合わせている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	喜びや楽しみを共有できるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	個人の様子を観察し状態把握に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	研修を繰り返し行い、理解に努めている。	○	◎	○	人権や尊厳等にかかるテーマでの研修を繰り返し実施し、職員はプライバシー尊重の大切さを理解し共有している。職員は利用者を人生の先輩と意識しており、トイレ誘導等の際には羞恥心に配慮してさりげない声かけの徹底に努めている。居室に入室の際は、必ず声かけやノックをするようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	その人にだけ伝わり易い言葉や大きさに対応している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	自分がされたら嫌なことはしない、という思いで介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室の際、ノックやひと声をかけるように努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修等で理解を深めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者もスタッフも「ありがとう」の言葉を大切にしている。	/	/	/	職員は利用者の関係性を把握し、席配置等に配慮している。利用者同士不穏な雰囲気になりそうな場合は、職員が間に入り仲を取り持つなど、いい関係が継続できるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で理解しあえるようにスタッフが介在できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	座席の配置、テーブルの向きなどトラブルの火種が垣間見えたら速やかに対応している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルに発展しない様、問題になりそうな課題は事前に対処している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	ご家族からの情報や以前利用していた施設からのサマリーなどから把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	ご家族との外出は常に受け入れ、友人知人との交流を勧めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室やリビングなどで自由に談笑できるように環境を整えている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	季節の行事や、天気の良い日には積極的に戸外を散歩する等、一日中室内にこもらない様活動している。	○	○	○	事情所周辺の神社や公園等を散歩している。重度の利用者を含め、月1回は全員でドライブに出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	希望があれば近隣のサービスを使って外出支援を行っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	段差が解消され、車椅子でも外を移動しやすく整備されている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	ご家族等に協力をお願いしたりしながら支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	根本療法で対応できるように一人ひとりの心身の状態把握に努めている。	/	/	/	食事や着替え、居室の掃除など、利用者には自身で取り組んでもらっている。職員は見守りに徹し、できない部分を手伝うようにしており心身機能を低下させないよう心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者のできることを理解し、運動リハ・生活リハを提供している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	◎	まず見守ることで出来ている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	把握出来ている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆ふきなど、利用者一人ひとりに役割や出番を作り取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者個々に合わせたお手伝いとレクリエーションを考え、提供している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	地域の方が参加する行事にも参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分で服を選べたり、好きな色の衣類を調達してもらったり、ご家族とも話し合いながら用意している。	/	/	/	衣服の汚れ等に気づいた場合は、周囲に分からないよう「お手伝いしてくれますか?」とさりげなく声をかけるなど工夫し、居室に誘導し着替えてもらっている。重度の利用者を含め、好みの髪型に整えるなど意向を尊重し、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の嗜好に合わせて用意している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちに沿った実施に努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	本人への希望調査等とで、行事に応じた物を用意している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	周囲に悟られることのないよう、さりげなくカバーしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本人に希望があれば積極的に進めている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご家族の意向や本人の希望の添えるよう努めている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解できていると思う。	/	/	/	利用者の食べたいものや好みを聞きながら職員が献立を立て、毎日買い物に行き旬の食材を購入している。調理は基本的に職員が行っているが、野菜を切り和えものにするなど、食後に下膳をもらうなど、できることは利用者にも手伝ってもらっている。誕生日にはお寿司やケーキを用意するなど、好みのものを献立に取り入れることもある。茶碗や湯飲み、箸等はそれぞれ使いやすいものを自宅から持参し使用しており、状態に変化があった場合は家族に相談し、より使いやすいものに変更している。朝食と夕食は職員も利用者と一緒に同じものを食べながら食事のサポートをしているが、昼食については、職員は弁当を持参しており、食事中はサポートのみで食事は別に摂っている。今後は職員間で役割分担し利用者と一緒に食事を摂れるよう検討して欲しい。リビングに面した台所で調理しているため、重度の利用者を含め、全員が調理の音や匂いを感じることができる。買い物に行く時は利用者の好みも考えながら、同じような食材で献立が重ならないよう職員間で相談し、栄養バランスの取れた家庭的な食事が提供できるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来る限り利用者の自主性に任せている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	出来ることをすすんでいただいている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご家族からの情報等で把握出来ている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	行事食など工夫している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	利用者個々に対応している。色つきのお茶碗だったり、スプーンですくいやすいように淵が少し高いお皿等。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	全員自宅から持って来たものを使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	毎食、各テーブルに職員が入りサポートしている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	声かけや調理の工夫等毎日行っている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分摂取量を毎日記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取が苦手な方は、時間をかけて摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	肉に関してはバランスよく牛・鳥・豚と設定したり、魚も野菜も摂れるように買い物で調整している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	日常的に行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎年必ず研修に取り入れている。	/	/	/	毎食後歯磨きや義歯の手入れを実施しており、その都度職員が口腔内を確認し状況を把握し、常に清潔な状態を保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	利用者全員の口腔ケアを行っており把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	研修等で得た知識を実践するようになっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	入れ歯洗浄剤を活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後全員の口腔ケアを実施している。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合が生じた場合、ご家族と情報を共有して早急な改善に努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修等を重ね理解している。	/	/	/	職員は排泄記録で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、それに沿い声かけトイレ誘導を行っている。夜間はリハビリパンツやポータブルトイレを設置するなど、利用者一人ひとりの状況に合ったケアを実施しており、排泄の自立に向けた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修や訪問看護からの情報で理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間の排泄記録をとり、自立したトイレ使用に繋がるよう努力している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	対応が適切かどうか、必要に応じて話し合う機会を設け対応できている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄パターンと記録から原因追究をしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンの把握により、排泄のタイミングより少しだけ前段階で誘導している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	失禁量や時間帯に応じて5種類の紙おむつ等を用意している。また、単独の判断ではなく複数人で考えている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	適宜使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	コップに注ぐ量を少し増やす等摂取量が知らぬ間に増えていたり、散歩等の運動で便秘の改善に努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	利用者個々の体調や精神状態等を見て、希望に添えるよう対応している。	◎	/	◎	週3回の入浴が基本であるが、希望があれば毎日の入浴でも対応できるほか、湯温や時間帯など利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	時間を気にせずゆっくり入浴出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来ることは些細なことでもやってもらっている。耳をふさぐ、前だけ洗う等。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いすることなく、自分の意思で浴室に向かえるよう努めている。男性スタッフが原因の場合は速やかに女性スタッフに誘導を交代している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日のバイタル測定をとおして判断している。不安を感じた場合は中止している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	常に情報交換し、違和感を覚えたら記録したり申し送りで具体的に説明している。	/	/	/	夜間安眠できるよう日中の活動量を増やすなど工夫しており、安易に薬剤に頼らないよう努めている。不眠が続く等やむを得ない場合は、主治医に相談し薬剤を処方することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の臥床時間を調整したり、運動等で夜の睡眠に向けた対応を図っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	往診時や受診時に相談し、薬の使用については医師の止むなしと判断されるまで支援力で対応している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室対応施設なので、臥床して休みたいときは自室で休まれている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持ち込んでいたり、手紙の要望があればその都度対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	電話も手紙も出来ないという認識は持たず、自分ツチが電話をかけるように手紙を書く様に対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	ユニットごとにコードレス子機を設置しているので自室からの電話は可能。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人にお渡しし、折り返し電話を入れるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	希望に応じて連絡を入れている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	計画は常にある。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	一緒に買い物に行く際にお店の方に協力の声を常にかけている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	紛失の恐れを説明しながら、財布で所持出来るようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	常に相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣いとしての預り金は実施していないが、受診や整髪台として少額預っている。出納帳がある。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	希望やニーズに添えるよう対応している。	◎	/	◎	利用者個々の買い物やお墓参りへの同行等、要望があれば柔軟な対応に努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関周りにはベンチ等を設置している。	◎	◎	◎	玄関には近隣住民から寄贈の盆栽が置かれ、アプローチにはベンチが設置されるなど、気軽に出入りでき親しみやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の行事ごとに室内の飾りつけは変更されえいる。	◎	◎	◎	玄関には地域の象徴である太鼓台のポスターが貼られ活気が感じられる。空気清浄機が各ユニットに2台ずつ設置されているほか、掃除が行き届き清潔感がある。玄関やリビング、洗面台などに、さり気なく紫陽花など季節の花が生けられ季節感もある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレやポータブルトイレを中心に臭いもの付近には、消臭機・消臭剤を使用している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	花を飾ったり、季節感のある食事を出したり、五感に訴える努力をしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室の行き来やリビングでの座席配置には気の合う仲間に配慮している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	間仕切りなどで工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時になるべく使い慣れた物に囲まれるよう、家族には話している。	○	/	○	位牌や家族写真等大切なものを持ち込み、居室は居心地よい空間となり安心して暮らせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室やトイレを本人がわかりやすい表現で明示している。	/	/	○	トイレや居室の表示を分かりやすくしているほか、バリアフリー構造で利用者が安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	解りやすくするために一部屋に一つの意味があるようにしている。トイレ・寝るところなど。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞・雑誌はすぐ手に取れるように分かり易く置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	施錠の弊害は理解している。夜間の防犯上の戸締りについては、利用者も望んでいる。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を十分理解しており、玄関等は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	自分におき換えた判断で理解をし、家族にも説明している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出希望が強い方には、行ける日時等を明確に伝えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	フェースシート・アセスメントなどから情報を得ている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	バイタルサインチェックは毎日実施し、記録に残すことで体調の変化に推測を持ってケアにあたっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	すぐに電話で相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医に相談し、必要なら希望の医療機関を受診してもらっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	相談しながら圧迫感がないような受療に努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	出来る限り対応している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供したり、確認の電話があればすぐに応えられるよう準備している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	治療計画等、連携室と話し合い退院後の暮らしを支えられるよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	かかりつけ医が中心にスタッフも同席しながら医療機関と話し合うことがある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週3回の訪問看護、月2回の往診時に相談し、必要に応じて専門の医療機関にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で相談できる状態にある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	かかりつけ医に24時間相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報を整理し、いつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックの上服薬の援助を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々状態確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	異変を感じたら記録に残し、急を要する場合はかかりつけ医に連絡相談する。				

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族と話し合いの場を設け、確認をとっている。	/	/	/	状態が変化した場合、看取りの希望者には看取り指針に基づいて対応している。終末期の対応について、家族や主治医、看護師等を交え話し合い方針を共有しており、職員の不安軽減につなげている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師・訪問看護・職員と家族も含め話し合い共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	スタッフ個々の力量を考慮した指示を出している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	内容を説明し、了承を得て契約出来ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状況の変化・今後の予測をもとに体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族との日々の関わりの中で、寄り添える環境を整えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修会で知識を得ている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	対応マニュアルを設置している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	情報収集後、全員が共有できるよう配布している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	状況に応じ対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	面会等の来訪者にもアルコール消毒・マスクを用意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時、具体的な介護状況を説明し協力をお願いしている。				夏祭りや敬老会等の行事には、家族に参加の呼びかけを行い協力してもらっている。毎月家族に送付する日常生活報告書で、管理者からは事業所の行事案内を、利用者の各担当者からは健康状態や生活状況などを詳しく報告しており、家族は利用者の日頃の様子がよく分かり感謝している。職員の異動や退職等は、広報誌で職員名だけを知らせる簡単な報告にとどまっており、家族からは担当者変更後の利用者の様子の変化などを知らせたいという要望もあるため、家族の安心につながる伝達方法を検討して欲しい。家族の来訪時には必ず声をかけ意見や要望等を聞くようになり、気軽に話ができる雰囲気づくりに努めている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	お茶を提供しリビングや居室で談笑できるようにしている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事予定を広報等でお知らせし参加を呼び掛けている。行事のボランティア訪問等		○			○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、日常生活報告書を送ったり、広報誌を送ったりして暮らしぶりを見てもらっている。		◎			◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	日常生活報告書には具体的な内容を記載している。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	これまでの生活を理解し、入所したことによって疎遠になるのではなく、認知症の方の特性から更に密な関係を持てるよう援助している。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	面会時や月1回発行している広報誌でお知らせしている。		△			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	敬老の日の行事の後に家族会を開いている。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	個々に説明、話し合いを行っている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来所時には必ずお声を掛け話をさせて頂いている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明・同意を得て署名してもらっている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	説明・同意を得ている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	行えている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の方が参加する行事がありその際に紹介したり、広告を近隣に配布したりしている。	/	◎	/	代表者が自治会長をしている関係で、地域行事には積極的に参加するほか、事業所が地域の避難所にもなっており災害訓練を行う際には地域の方に協力してもらうなど、地域とのつながりはできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域内を散歩したりして挨拶運動を展開している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	夏祭りなどの行事に参加してくれ、支援してくれている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	◎	通学の小学生や近所の方等の通り抜け等でお話する機会がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	フェンス越しにあいさつしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	夏の行事には学生ボランティアが入っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	認知症の施設と理解してもらっているので安全に散歩が出来る。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	大勢の人が集まる場に配布している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回出席している。	x	/	x	民生委員等地域住民の参加者には恵まれているが、利用者の参加はなく、家族の参加も固定されたメンバーのみとなっているため、利用者や家族が参加しやすいよう日程を調整したり、興味のあるような議題を取り上げたりするなど工夫して欲しい。運営推進会議では、事業所の評価への取り組み状況等について報告し、参加者からの意見や提案をサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	対応している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	スタッフ研修会で公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	地域で暮らす一員として、地域の活動にも参加しながら、個人が守られるように配慮している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	見えやすい所に掲示し入所時には説明している。	×	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の紹介は頻繁である。				代表者は事業所の近くに住んでおり、頻繁に訪れ利用者や職員のことなど事業所内の状況を把握するほか、気軽に声をかけており、職員は話しやすいと感じている。また、職員と面談する機会を設けており、備品の整備や勤務シフト等のことを聞いたり、忘年会や慰労会など気分転換の機会を提供したりするなど、職員のストレス軽減につなげている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	年間計画に沿って繰り返し研修している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	スタッフ個々に話し合いを設けている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	他事業所との連絡も広報誌などを通して活動している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	人的配置や物理的な配置等の相談に乗ってくれている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待については厳しく目を光らせている。				職員は研修で接し方や対応の仕方等について、理解し共有しており、気になったらその時点で注意し合い全体会議でも話し合うなど、不適切なケアを見つけた場合の対応方法や手順等を把握している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	管理者への相談はいつでもおこなえる。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	虐待に発展しかねないと思しき事にはすぐ声をかけ、行きすぎないようにしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	両ユニットの隅々までチェックしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修会で繰り返し基準を伝え理解を求めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修会の度に報告している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	利用者の状況が悪化しても身体拘束がないように人の力に対応していく説明を充分している。				

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	研修会で最低限の知識を持ってもらっている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	情報提供は早急に行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携して動けるように関係を構築している。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアル化されている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	年1回消防署員に来所して頂き講習している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	年間の件数をまとめ原因追究している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故防止への取り組みは繰り返し計画している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	管理者を中心に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	対応はとても早い。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	納得が得られるよう説明は丁寧に行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	面会時等に気軽に記入出来るご意見箱を置いている、いつでも伝えやすい雰囲気づくりをしている。	/	/	○	利用者からは、日々の生活の中で表情や様子を見ながら個別に話を聞くようにしている。家族からの意見や要望は、面会時に声をかけて話を聞くようにしている。管理者と職員は、常にコミュニケーションを取っており、気軽に意見や提案ができる関係を築いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情受け付けは常時設置し話しやすい雰囲気づくりに努めている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	市役所等が該当施設であることを説明している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	連絡を密にして適宜対応している	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常にコミュニケーションをとっている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価を行っている。				運営推進会議では評価結果と目標達成計画を報告して助言をもらっているが、会議に参加していない家族には報告できていない。今後は家族全員に評価結果等を理解の上、目標達成に向けての取り組みのモニターをしてもらえるようになることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	共通認識が持てるので改善に活用している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成出来るように適切な目標設定している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	実施時は確認している。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	報告し内容を評価していただいている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害の種類に応じてマニュアル化している。				避難訓練の際には、地域住民やデイサービス事業所にも参加してもらうなど、地域との協力・支援体制は構築されているが、家族には周知できておらず、参加等協力を得られていないのが現状である。今後は、緊急災害時に迅速な対応ができるよう家族の参加・協力を促して、より実効性のある訓練にして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	避難誘導訓練は厳しく行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	訓練方法等相談できる関係は構築しており、市の出前講座の開催にも協力してくれる。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	避難誘導訓練では地域の避難場所までの時間測定も行い報告している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	広報誌や行事の際に情報発信している。				地域の高齢者の家族からの相談に応じたり、事業所見学の希望等に対応したりするなど、地域の相談支援に努めている。学生実習やボランティアの受け入れ、小学生との交流などは積極的に行っている。市等関係機関と連携して避難訓練や出前講座など、地域活動等にも取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	いつでも相談できるよう人員配置している。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	要望があれば活用していただいている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	積極的に受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	連絡を取り合って活動している。			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年6月20日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500246
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
(ユニット名)	のぞみ
記入者(管理者)	
氏名	田坂 慶子
自己評価作成日	令和元年 5 月 31 日

<p>【事業所理念】 その人らしさを大切にす温もりのある支援と介護を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者一人ひとりの思いを大切に気持ちに余裕を持って対応する事で、着替えをする時も自分が選べるようになり、満足した笑顔が見受けられるようになってきている。月1回発行の広報誌にお知らせコーナーを設け情報提供し、家族が来所時には利用者様の様子等説明し、気軽に話が出来るような声かけを心掛けるようになってきている。利用者の思いが叶えられる様に、常に理念を念頭に置いた支援が出来るよう職員間で気が付いたら指摘しあえる人間関係が出来、温かい支援が出来るようになってきている。防災の備えについては当施設が避難場所になっていることもあり、日頃から地域住民とのコミュニケーションが取れるようになった、防火訓練以外にも、市に出前講座を依頼(煙ハウスを利用した避難訓練や心肺蘇生術)し開催した時にも地域住民の参加もあり人間関係も築けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者と職員は信頼関係が築けており、事業所理念に掲げるその人らしさを大切にす支援に努めている。職員は利用者のことを自分の家族のように接している。事業所は災害時における地域の避難所となるなど、地域との協力体制も構築され、利用者は地域の中で見守られながら生活しており家族も安心である。「生きる楽しみを共有し、楽に自然体でその時を迎えられるように」との思いで関係者が方針を共有し、看取りにも積極的に取り組んでいる。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の暮らしの中で話をしたり感じたりしている。	○	/	○	日々の暮らしの中で、会話や表情から、それぞれの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族からの情報提供と観察から。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会等の来訪時に話をし情報の共有をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ユニット会等で話し合ったことや本人の思いは記録に残している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	気づいたことはスタッフみんなで話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	アセスメントシート・フェースシート・本人・家族からリサーチ。	/	/	○	入居の際に利用者や家族、介護支援専門員からこれまでの生活歴やサービスの利用状況等を聞き取っている。入居後も面会に来られた家族や知人などからも情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	スタッフみんなの目で観察し話し合う。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の観察は怠っていないので事前に対処している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	表情などから不安や不安定の要因を理解し寄り添い傾聴している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	観察を充分にして異変を感じたら話し合う。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ユニット会で話し合い一人一人のニーズを共有している。	/	/	○	担当者会議以外にも、毎月のユニット会で家族の意向や職員の気づきなどを話し合い、一人ひとりのニーズを共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人の視点に立ち検討して近づくように努力している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題に対して申し送り等で細かく検討し目標を立て行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	現状に即したプランを作成している。	/	/	/	利用者や家族の意向に沿って日々のケアのあり方を話し合い、本人がより良く暮らすための課題解決に向けて介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族の要望も聞き職員と話し合っ作成し支援している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	馴染みの者等を身の回りに配置し、過去の暮らしや思いが復活するよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	ボランティアや小学校等との交流も取り入れている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	全ての職員がプランを目につく所に保管し共有し実行している。	/	/	◎	介護計画の内容はいつでも確認できるようファイルされ、職員間で共有している。介護記録には介護計画に沿ったケアが実践できたか評価を記載しており、日々の支援や計画の見直しにつなげている。利用者一人ひとりの暮らしの様子や職員の気づき等の具体的な内容についての記録が少ないため、今後は記録に残して職員間で共有できるよう努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日プランが実践できたか確認し評価している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	経過記録に残している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	経過記録申し送りノートを活用している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	担当者会議の内容を密にし見直しがあれば早急に行っている。	/	/	○	介護計画は3か月に1回見直している。状態に変化のない場合も、月1回のユニット会で利用者全員の現状を確認している。入院等で状態に大きな変化が生じた場合は、速やかに家族等を交え会議を開催し、現状に応じた新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回話し合う場を設けている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態が変化した場合は速やかに担当者会を開き見直しプランの変更をしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回の話し合いに合わせて緊急時はすぐ担当者会を開いている。	/	/	○	日頃の課題を解決するため、毎月接遇や感染予防等テーマを掲げ、研修を兼ねて全体会議を開催するほか、緊急案件がある場合は、その都度会議を開催している。会議録は確認後サインする仕組みで、全員の周知が確認できるまで置いており、参加できない職員にも情報が伝わるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ皆が必ず一言発するように会が進められる。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	休暇中の者も参加できる時間帯に設定している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を回覧し質問出来る体制をとって理解してもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	議事録や申し送りノートの活用と、説明できる人がいる。	/	/	◎	会議録や申し送りノートを活用し、職員全員で伝達すべき内容等について検討し共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日の申し送りと・申し送りノートに記録を残し回覧している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	嗜好を確認しプランに盛り込んだり、したいことを行えるようにしている。	/	/	/	毎日の衣服は、ゆっくり選んでもらえるよう時間の取れる前日の夜に、利用者一人ひとりの要望を確認し決めるようにしている。季節に応じて、「アジサイがきれいだから観に行こう」など、利用者の興味をそそり外出を楽しんでもらうよう工夫した声かけに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	業務の合間に本人とゆっくりした話をし、思いを聞き取り意思を優先し、自己決定出来るように支援している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	気軽にお話出来るような信頼関係づくりの努力をしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者一人一人のペースやこだわりを大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員が利用者と共に生きることに感謝の念をもった言葉かけに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や身振りをs殿視線からくみ取るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人生の先輩であることを忘れないように常に尊敬の気持ちで接している。	○	◎	○	人権や尊厳等にかかるテーマでの研修を繰り返し実施し、職員はプライバシー尊重の大切さを理解し共有している。職員は利用者を人生の先輩と意識しており、トイレ誘導等の際には羞恥心に配慮してさりげない声かけの徹底に努めている。居室に入室の際は、必ず声かけやノックをするようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	その人に寄り添い大声を選けた言葉かけに努め排泄は特にさりげなく実践している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	排泄時、扉の外から聞き耳を立てて様子をうかがうようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ずノック・声をかけてから入室するようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	何気ない会話にも個人情報貼ってしまえば漏えいし得ることを勉強会で学んでいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活リハビリとして簡単な家事は実践してもらい、互いにありがとうが言える関係を保っている。	/	/	/	職員は利用者の関係性を把握し、席配置等に配慮している。利用者同士不穏な雰囲気になりそうな場合は、職員が間に入り仲を取り持つなど、いい関係が継続できるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	ありがとうが言える関係。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	必要に応じて席替え等を実施し、バランスある配置に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入りトラブルにならない様に話をそらせたり説明を図ったりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	ご家族からの情報をもとにフェースシートを作成し、人となりを把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人からの聞き取りを中心に、フェースシートによって情報を共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	個々の思い出や、生活歴に留意し希望があれば家迄ドライブしたりして支援に努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	教室内の環境整備を密にし、座ってお話し出来るようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	1日1回は外に出るよう外周散歩等を実施している。菜園などもあり一人ひとりが趣味の楽しみが持てるように様支援している。	○	○	○	事情所周辺の神社や公園等を散歩している。重度の利用者を含め、月1回は全員でドライブに出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	準備は整っているが本人の希望が家族との行動を希望する。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	花が見えるように視線より高い位置に植えられていたり、段差も解消されており車椅子で散歩も無理なく毎日取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	希望があればすぐご家族に連絡し可否の相談を持ちかけている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会や研修等で知識を広げ、些細な行動の変化に気づけるよう努めている。	/	/	/	食事や着替え、居室の掃除など、利用者にはできることは自身で取り組んでもらっている。職員は見守りに徹し、できない部分を手伝うようにしており心身機能を低下させないよう心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	食事風景や散歩の様子を観察し、バイタルチェックとを総合的に判断し変化に気付くよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	できることに目を向け、見守り、自信につなげられる様に声かけをしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメントシートを活用し、希望や目標の把握に努めている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆ふきなど、利用者一人ひとりに役割や出番を作り取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者一人一人の生甲斐や張り合いになることを毎月の行事等に反映し、活躍できる場面を日々の暮らしに活用している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	地域の方が来所される様な場面では職員のお手伝いを通して活躍する場を設けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者の好みを聞いて、自身で衣服を選択し、外出時にはいつもと違う装いをさせていただいている。	/	/	/	衣服の汚れ等に気づいた場合は、周囲に分からないよう「お手伝いしてくれますか？」とさりげなく声をかけるなど工夫し、居室に誘導し着替えてもらっている。重度の利用者を含め、好みの髪型に整えるなど意向を尊重し、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	訪問散髪時に本人に希望の髪型を聞いたり、季節に応じた衣類を本人に選んでもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	季節に合わせた衣類をいくつか並べて、一緒に選んでもらっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時の帽子やハンドバッグなどで個性を出せるように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	他の利用者から指摘されることがないよう、TPOに応じた衣服を着用できるよう助言している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎	思い入れのある店舗に行けるよう努めている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご家族の情報をもとに、その人らしさが保てるようにしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	勉強会等で理解して、食事は楽しいと思えるような支援をしている。	/	/	/	利用者の食べたいものや好みを聞きながら職員が献立を立て、毎日買い物に行き旬の食材を購入している。調理は基本的に職員が行っているが、野菜を切り和えものにするなど、食後に下膳をもらうなど、できることは利用者にも手伝ってもらっている。誕生日にはお寿司やケーキを用意するなど、好みのものを献立に取り入れることもある。茶碗や湯飲み、箸等はそれぞれ使いやすいものを自宅から持参し使用しており、状態に変化があった場合は家族に相談し、より使いやすいものに変更している。朝食と夕食は職員も利用者と一緒に同じものを食べながら食事のサポートをしているが、昼食については、職員は弁当を持参しており、食事中はサポートのみで食事は別に摂っている。今後は職員間で役割分担し利用者と一緒に食事を摂れるよう検討して欲しい。リビングに面した台所で調理しているため、重度の利用者を含め、全員が調理の音や匂いを感じることができる。買い物に行く時は利用者の好みも考えながら、同じような食材で献立が重ならないよう職員間で相談し、栄養バランスの取れた家庭的な食事が提供できるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	旬の食材を使用したり献立や調理方法等をお話ししながら一緒に行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	出来ることを一緒に行うことで自信や達成感につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時の家族からの情報と食べ残しや本人から聞き取りなどで把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の料理、行事食、懐かしい食材などを利用者から聞いて一緒に調理している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	健康状態に合わせた食材を使用したり、嚥下状態を考えた大きさに刻んだりするが、キザミ食であっても彩には注意している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅から使い慣れた物を持ってきていただいている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	要介助者の隣に腰かけ一緒に食事をとりながら声かけもしながら介助をしている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	メニューを伝え、彩りや臭いまでも伝えるようにしている。	/	◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎回のチェックを良く見て水分摂取量・食事量の過不足を確認している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量・水分摂取量がいつも同じくらいになるよう回数を増やしたりして細かく提供している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養分類表をキッチンに貼っており、前日の献立や、その日使った食材から肉魚に偏りが無いようバランスよく調理している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	冷蔵庫保管や食器・調理器具の温風除菌などで衛生管理を徹底している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修や講習会等に参加し、知り得た知識を実践している。				毎食後歯磨きや義歯の手入れを実施しており、その都度職員が口腔内を確認し状況を把握し、常に清潔な状態を保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアやお話をするときに口腔内をよく観察している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔ケアの情報を歯科医や歯科衛生士から助言していただき実践している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間、義歯を預り洗浄剤を活用しきれいを保つようしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	洗面所でまずは自ら歯を磨いてもらい、手直しとして不十分なところをケアしている。夕食後は義歯洗浄剤を使用している			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	ご家族に連絡し、早急に応診できるよう確認している。無理な場合は職員が引率している。訪問歯科も利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修会を通して理解に努めている。				職員は排泄記録で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、それに沿い声かけしトイレ誘導を行っている。夜間はリハビリパンツやポータブルトイレを設置するなど、利用者一人ひとりの状況に合ったケアを実施しており、排泄の自立に向けた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修会で勉強し理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間の排泄記録により見やすく整理し把握できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄記録より、本人の動き等からリズムを把握し、トイレで排泄できるよう声かけに努め誘導してトイレで排泄してもらっている。夜間ポータブルを使用する方は居るが過剰なオムツ使用は避けている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	スタッフ個々の意見を聞きながら、少しでも改善点がないか話し合っ排泄自立を目指している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	表情や動作、排泄記録から事前に排泄行動を起こせるように努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	ご家族や本人と話し合い、最適なオムツのタイプを選択を図っている。使用中、更に変更が出た場合もご家族に相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	排泄の状況に合わせて使用するオムツを選んでいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝の牛乳やバナナ・散歩・ストレッチを提供している。水分量にも気を付けている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	本人の入浴希望を優先し、体調等を考慮し本人のペースで個別に対応している。	◎		◎	週3回の入浴が基本であるが、希望があれば毎日の入浴でも対応できるほか、湯温や時間帯など利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	自立度の高い方には本人のペースで時間を気にせずに入浴してもらう為、極力言葉かけも控えて見守った入浴にしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗身・洗髪の出ることはほとんどやってもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	時を変え人を変えしながら、穏やかに移行できるよう努めている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝のバイタルサインと見た目の様子から可否を考え、更にバイタルサインチェックをして判断している。				

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者の報告が密であり把握出来ている。	/	/	/	夜間安眠できるよう日中の活動量を増やすなど工夫しており、安易に薬剤に頼らないよう努めている。不眠が続く等やむを得ない場合は、主治医に相談し薬剤を処方することもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中から運動等をして夜の睡眠に繋げられるよう工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中身体を動かしてメリハリのある過ごし方等を検討し様子を見たとえ、主治医と相談し必要性がある場合のみ使用するようになっている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室対応なのでいつでも臥床出来る。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話の持ち込みがあったり手紙を取り次いだりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	代筆や、電話をかけてあげてお話しするように援助している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があればすぐ対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	管理者を中心に折返し連絡をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	音信不通はさみしくなる旨を説明している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	職員は理解しており希望者には所持を認めている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	希望があれば速やかに対応している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣の商店の協力要請している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	ご家族・利用者の要望に配慮し、財布や少額の金銭を所持してもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族と話し合い、常に持ち歩いてもらうように話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族に連絡し対応を相談している。必ず金銭管理台帳に記入し確認印ももらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人・家族の要望がかなえられるよう努力し対応している。	◎	/	◎	利用者個々の買い物やお墓参りへの同行等、要望があれば柔軟な対応に努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	駐車場も広く、ベンチなども設置しており憩いの場になれるよう努めている。	◎	◎	◎	玄関には近隣住民から寄贈の盆栽が置かれ、アプローチにはベンチが設置されるなど、気軽に出入りでき親しみやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	畳の間があったり、対面キッチンになっているので一般家庭にいる雰囲気が味わえるようになって	◎	◎	◎	玄関には地域の象徴である太鼓台のポスターが貼られ活気が感じられる。空気清浄機が各ユニットに2台ずつ設置されているほか、掃除が行き届き清潔感がある。玄関やリビング、洗面台などに、さり気なく紫陽花など季節の花が生けられ季節感もある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除の徹底、空気清浄機や消臭剤を設置した配慮をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の写真や折り紙、花が飾られ五感に刺激がある様にしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングや居室で自由に談笑できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	アコーディオンカーテンや扉で見えない配慮をしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	写真や位牌を持参したり、自分が納得できる装飾品で飾ったりして整えている。	○	/	○	位牌や家族写真等大切なものを持ち込み、居室は居心地よい空間となり安心して暮らせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや居室がわかりづらい人には、その人が理解できる文字や絵などで貼り紙や目印で表示している。	/	/	○	トイレや居室の表示を分かりやすくしているほか、バリアフリー構造で利用者が安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者の視線や認識力に応じて解り易く整理整頓している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞や雑誌、リハで使う道具(お手玉など)、掃除用具や日常で使用する機材は自由に手にする事が出来る。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員は毎月の会議で充分理解できており、ユニット間の往来、外周散歩等を両ユニットの職員が協力して見守り・気配り・目配りしながら自由に行動できるようにしている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を十分理解しており、玄関等は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族の了承も得て、鍵をかけないリスクの説明に納得してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出希望や帰宅要求が出た時にはいつも玄関が開いているので、職員と一緒に散歩に出かけたり、本人の興味を引くことをしてもらい気分転換を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	フェースシートや担当者会で病歴や既往歴の把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	バイタルサインチェック・歩行状態・皮膚状態などの観察に合わせ、本人の訴え等からも知り得た情報は記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護・かかりつけ医に相談し治療の有無を確認している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	前もって受診内容を確認し、家族の意向に沿って行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族・本人の希望を聞き、かかりつけ医と相談し専門の医療機関を受診している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は速やかに連絡し、今後の相談を行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	施設での状況をサマリーと口頭で説明している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の担当職員と情報交換を密にして必要な対応に応じている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	病院の医療相談室の職員との交流もあり関係は構築されている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	体調の異変に気付いた時は訪問看護に相談している。かかりつけ医にもすぐ連絡している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制が出来ている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルサインチェックや顔色食欲等全てに気を付け、変化があれば記録して主治医に相談指示を仰いでいる。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	お薬手帳や薬剤情報を確認し理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	食前薬・食後薬をきちんと確認し、内服直前に再度確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	便秘が不穏のもとになり易い為排便確認は記録し、頓服薬を使用しながら調整している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	その都度記録をとり、家族や医師に情報提供している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに本人・家族と話し合い意向を確認している。	/	/	/	状態が変化した場合、看取りの希望者には看取り指針に基づいて対応している。終末期の対応について、家族や主治医、看護師等を交え話し合い方針を共有しており、職員の不安軽減につなげている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人・家族・担当スタッフを交え、かかりつけ医の助言を得て訪問看護師の協力も得て方針を決め共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	どのような支援が適切に出来るか、選択肢を用意して相談し指示している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	納得が得られるまで説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	かかりつけ医を中心に訪問看護、スタッフ・家族などでチームを形成して、些細な変化に対してもその都度検討し多職種で協力し援助している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の心情も汲み取り傾聴に努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に研修し理解を深めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	定期的な研修により、感染症が発症しても慌てず対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関やインターネットから情報を取り入れ全職員に配布している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染所発症状況を把握し、その都度対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いやうがいの励行、来訪者にも消毒・マスク等も提供している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時等に本人の状態の話等を具体的に家族の意向を聞き一緒に本人を支えている。	/	/	/	夏祭りや敬老会等の行事には、家族に参加の呼びかけを行い協力してもらっている。毎月家族に送付する日常生活報告書で、管理者からは事業所の行事案内を、利用者の各担当者からは健康状態や生活状況などを詳しく報告しており、家族は利用者の日頃の様子がよく分かり感謝している。職員の異動や退職等は、広報誌で職員名だけを知らせる簡単な報告にとどまっておき、家族からは担当者変更後の利用者の様子の変化などを知らせたいという要望もあるため、家族の安心につながる伝達方法を検討して欲しい。家族の来訪時には必ず声をかけ意見や要望等を聞くようしており、気軽に話ができる雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	お茶を提供し、家族と本人がゆっくりくつろいでいただけるように雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事予定等広報でお知らせして参加を呼びかけている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月日常生活報告書・広報誌を送ってお知らせしている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	広報誌で全体的なこと日常生活報告書で個人的な体調面等を詳しく伝えている。面会時にも具体的にお話している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症・本人の理解度等を考慮して、家族には資料を使ったりして説明し理解してもらっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	行事予定・職員の異動等は毎月の広報誌で知らせている。面会時や電話でも報告をしている	△	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	家族会や夏祭り・敬老会等で食事を提供し交流の場を作っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	その人らしい暮らしを目指す話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時には必ず声かけて、利用者様の様子をお話して家族様の気持ちを聞いている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	常に注意を払って説明し、納得頂いて署名を貰っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	丁寧に説明し納得していただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	毎回説明し同意をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	参加いただける行事は案内状を配布し説明している。	/	◎	/	代表者が自治会長をしている関係で、地域行事には積極的に参加するほか、事業所が地域の避難所にもなっており災害訓練を行う際には地域の方に協力してもらうなど、地域とのつながりはできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域内を散歩したり、買い物したりしている。地域の行事にも参加している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	夏祭りの一般の方の参加が増えつつあるのがその結果。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	気軽に立ち寄れるようベンチを設置しており、休まれたりトイレを使用したりして話をし帰られる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	地域の一員として挨拶をし声を掛け合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	ボランティアを活用したイベントを開催したりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	地域の一員として暮らせるよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	買い物は地元のスーパーを使い顔見知りになっており協力体制が出来ている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	x	/	x	民生委員等地域住民の参加者には恵まれているが、利用者の参加はなく、家族の参加も固定されたメンバーのみとなっているため、利用者や家族が参加しやすいよう日程を調整したり、興味のあるような議題を取り上げたりするなど工夫して欲しい。運営推進会議では、事業所の評価への取り組み状況等について報告し、参加者からの意見や提案をサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	全員参加出来るような時間日程で計画している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	リビングや玄関など目につくところに理念を掲げ、意識して実践している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関等に見やすいように掲示して、入所時、行事等の時に理念に基づいて支援と介護をしている事を説明している。	x	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内外の研修については積極的な参加を促している。				代表者は事業所の近くに住んでおり、頻繁に訪れ利用者や職員のことなど事業所内の状況を把握するほか、気軽に声をかけており、職員は話しやすいと感じている。また、職員と面談する機会を設けており、備品の整備や勤務シフト等のことを聞いたり、忘年会や慰労会など気分転換の機会を提供したりするなど、職員のストレス軽減につなげている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	◎	毎月年間テーマを決め計画に沿って研修会を開いている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職員個々と積極的に会話し、不平・不満に耳を傾け改善に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	積極的に関わるよう言葉を貰っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	年に数回不定期ではあるがスタッフミーティングを用意し意見を聞いてもらっている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待防止委員会で、虐待0に努め、研修会では繰り返し虐待の意味を説明している。				職員は研修で接し方や対応の仕方等について、理解し共有しており、気になったらその時点で注意し合い全体会議でも話し合うなど、不適切なケアを見つけた場合の対応方法や手順等を把握している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	業務に支障にならない様に配慮して、いつでも相談話し合いが出来るようにしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	温もりのある介護を目指し、スタッフ全員が虐待行為にならないよう未然に防ぐように注意深く関わられている。全体会で1ヶ月の反省もしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	出勤日は毎日ユニットに顔を出しスタッフの表情のチェックをしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修会等で具体的な事例を挙げ、事例検討等を通して実践的な身体拘束のないケアに取り組んでいる。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	繰り返し研修で学び身体拘束委員会が点検して話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族からの要望があった時にはその弊害を説明し、精神的・肉体的な拘束をしないケアを理解してもらっている。				

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	社内外の研修会に参加し、研修報告等で理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	ご家族等からの問い合わせの前に、アセスメントの段階から必要と思われる情報を整理し、速やかに助言できるよう努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	定期的に連絡し、情報交換に努めている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルは、速やかな処置が施せるよう目のつきやすい場所に保管している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に行っているが年1回は消防署による出前講座を開催し応急処置の講習を受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書を取りまとめ、原因追求と改善に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の観察、処方薬の変更等、申し送りなどで情報の共有に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルにおいて理解しており、穏便な解決に向かうよう努力している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	そのような案件が発生した場合は、速やかに相談・報告をするようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	管理者を中心に対策チームを発足させ、丁寧な説明・納得を得られるよう準備している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情受け付け用紙の設置・気軽に記入できる御意見箱の設置、話を聞き取る等、自由に出来るようにしている。	/	/	○	利用者からは、日々の生活の中で表情や様子を見ながら個別に話を聞くようにしている。家族からの意見や要望は、面会時に声をかけて話を聞くようにしている。管理者と職員は、常にコミュニケーションを取っており、気軽に意見や提案ができる関係を築いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情受け付け用紙の設置や聞き取り等、常に用意は出来ており、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	面会時等に常に話をし情報の提供も出来ている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	連絡を密にして、適宜対応している。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に話かけて相談に乗ってくれ、コミュニケーションをよく取っている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム微笑の家なかむら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	研修会等で年数回実施している。	/	/	/	運営推進会議では評価結果と目標達成計画を報告して助言をもらっているが、会議に参加していない家族には報告できていない。今後は家族全員に評価結果等を理解の上、目標達成に向けての取り組みのモニターをしてもらえるようになることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	弱い部分の評価を課題とし、改善できるよう研修会の議題にあげ取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	順序立てて計画を立案し目標達成に向け実践している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議で確認して頂いている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	確認して頂いている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルに基づき火災だけでなく地震・水害等の避難誘導も研修会で確認を行っている。	/	/	/	避難訓練の際には、地域住民やデイサービス事業所にも参加してもらうなど、地域との協力・支援体制は構築されているが、家族には周知できておらず、参加等協力を得られていないのが現状である。今後は、緊急災害時に迅速な対応ができるよう家族の参加・協力を促して、より実効性のある訓練にして欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防署からの指導を受け、実際に近い想定で訓練している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	期間を決めて定期的に確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域住民に訓練日をお知らせし参加をお願いしたり、隣のデイサービス事業所にも呼びかけ一緒に訓練したりして協力要請を行っている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の避難場所に指定されているので、災害対策等には出来る限りの計画を用意している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	地域の活動にも積極的に参加し、認知症ケアの実際を目にしてみようよう努めている。	/	/	/	地域の高齢者の家族からの相談に応じたり、事業所見学の希望等に対応したりするなど、地域の相談支援に努めている。学生実習やボランティアの受け入れ、小学生との交流などは積極的に行っている。市等関係機関と連携して避難訓練や出前講座など、地域活動等にも取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	問い合わせ等ですぐ対応できるような相談にはすぐ対応し、専門家の助言が必要な場合はすぐ連絡を取る等準備は出来ている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	色々使用してもらえよう広報している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	訪問看護実習生の受け入れ、行事の学生ボランティアの受け入れなど積極的に対応している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地域活動お祭り太鼓の休憩の場として、又小学生・幼稚園の訪問等受けれている。	/	/	○	